徳島新聞　令和２年８月22日（土）



健康

# 遺伝性乳がん

## 予防的切除に保険適用

## 罹患者全員の検査も対象

がん何でもQ&A

奥村　和正
徳島大学病院食道・乳腺甲状腺外科助教

**質問**　乳がんには遺伝するものがあると聞きました。検査や予防はどうすればいいですか。

**回答**　4月から遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）の乳がん既発症者に対するリスク低減乳房切除手術、乳房再建手術、リスク低減卵管卵巣摘出手術が保険適用になりました。

2人に1人が生涯で1度はがんを発症するとされます。がんの要因には環境要因（たばこ、酒、ウイルスなど）と遺伝要因があります。遺伝関連乳がんは全乳がんの5％～10％存在すると言われています。乳がんは日本で年間約9万5千人の新規罹患（りかん）者が出るので、1年で5千～1万人が遺伝関連発症です。

これまで感覚的にがん家系と言っていました。基礎研究者の努力の成果でさまざまながん家系を裏付ける原因遺伝子が分かり、近年はそれをターゲットにした治療薬が開発されました。

HBOCの原因遺伝子も判明しています。BRCA1とBRCA2という2種類の遺伝子です。これらに遺伝子変異が起きると、生涯で乳がんは40～80％、卵巣がんは11～40％の発症リスクがあります。他には、男性乳がん（まれに男性も乳がんを発症）が1～10％、前立腺がんは最大で39％、膵臓（すいぞう）がんは1～7％の発症リスクです。発がんリスクの5割は子孫に受け継がれます（常染色体優性遺伝）。BRCA1、BRCA2の変異はがんの既往歴にかかわらず200～500人に1人は起きるとされます。

現在の医学では、この遺伝子変異を治療する方法はありません。対処法は本当にこの遺伝子変異を持っているかどうかを検査し、もし変異があれば①25歳から1年に1回は乳腺MRIを含んだ乳がん検診を受ける②ホルモン治療を予防的に行う③リスク低減乳房切除手術、乳房再建を行う―の3通りに絞られます。

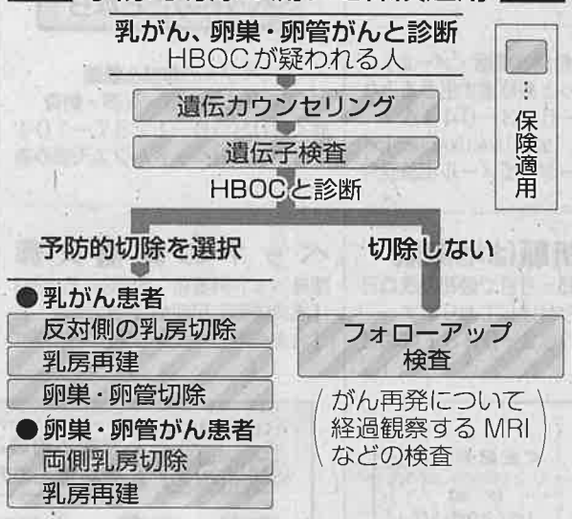
米女優のアンジェリーナ・ジョリーさんがBRCA1の遺伝子変異を認め、リスク低減乳房切除手術、リスク低減卵管卵巣摘出手術を受けたのはよく知られています。

BRCA1、BRCA2の遺伝子変異の検査は血液採取で行います。これまでは乳がんが再発した患者に対して新規治療薬が適応するか否かを調べる目的でのみ保険適用でしたが、4月の保険診療改定で乳がんに罹患した人全てが保険対象になりました。3割負担で自己負担額は6万円です。

遺伝性乳がんに対する検査治療や予防スタイルの進展は非常に喜ばしいです。それでも遺伝子検査を受ける動機や目的は患者によって違います。自分にとっての目的や検査で得られる利益、不利益を考えておくのが大切。担当医や遺伝カウンセラーと十分話し合い、よく考えてから結論を出すよう勧めます。詳しく聞きたい人はぜひ相談してください。

（第4土曜掲載）

### 予防的切除の流れと保険適用




がんに関する質問は徳島がん対策センター〈電088（634）6442〉（平日午前8時半から午後5時まで）へ。